

3類型	農林水産物	通巻番号	4-23-015
地域資源名	伊勢茶	認定日	平成23年9月29日
地域	津市、四日市市、伊勢市、松阪市、 鈴鹿市、亀山市、いなべ市、志摩市、菰野町、 多気町、大台町、度会町、大紀町	所管省庁	農林水産省・経済産業省

事業名：伊勢茶の活性化を目指し開発、商品化した『伊勢の和紅茶』シリーズの拡販事業

会社名：株式会社松阪マルシェ

所在地：三重県松阪市飯南町粥見3027

連絡先：TEL:0598-32-3732
FAX:0598-32-3732

H P : <http://www.m-marche.com/>

事業概要(新たな活用の視点)

- ・三重県のお茶の生産量は静岡・鹿児島に次ぐ全国第三位であるが、近年は茶価格の低迷により二番茶の需要の落ち込みが課題となっている。そこで、同社では、二番茶の有効活用に向けて、地元飯南飯高地域を中心として栽培された伊勢茶(やぶきた茶(飯南茶))を100%使用し、日本茶製法で加工した和紅茶を開発した。
- ・伝統的な栽培法(芽重型)をもとに、当地域の自然の恵みを最大限に受けた二番茶を原料とすることで、香り高く、程よい渋さと砂糖不使用でも十分な自然な甘みがあることが特徴である。



【伊勢の和紅茶】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

- ・一般的な紅茶製法はとらず、日本茶の製造工程を活かし、発酵時間を短縮することで、大量生産を可能とし、コスト競争力を有している。
- ・国産の紅茶はまだ認識度が低くあまり知られていないが、砂糖のいらぬ甘みとヘルシーさを兼ねた新感覚飲料であり、価格と使いやすさ(テトラパック入り)にも優位性がある。(右上写真：商品(20個入り内容量40g・業務用もあり)

◆市場性

- ・平成20年度に実施したアンケートでは、「美味しい」が86%を占めており、消費者から高い評価を受けている。
- ・和と洋が入り混じったライフスタイルのどちらにも合う飲料として紅茶市場、お茶市場にも参入が可能である。

◆販路

- ・県内の販路開拓に重点を置くとともに、中部圏、首都圏へのアプローチとして、紅茶専門店、和洋飲食店、百貨店、スーパー等への販路開拓を推進する。



【イメージデザイン】

地域における関係事業者との連携

- ・事業当初から松阪商工会広域連合、松阪西部商工会から支援・指導を受けている。
- ・茶葉生産農家とは引き続き連携するとともに、三重県、松阪市飯南町、三重県中央農業改良普及センター、三重県茶業研究室、松阪茶業組合とも指導・助言を受けながら事業を進める。